

esd

Education for Sustainable Development

2025 年度 活動レポート

本レポートは、近畿地方 ESD 活動支援センターが 2025 年度に実施した活動の全体像をまとめた年次報告冊子です。



近畿地方 ESD 活動支援センター

ESDとは？

持続可能な開発のための教育

Education for Sustainable Development (ESD)

ESDはSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて、持続可能な社会づくりの担い手を育む学習・教育活動のことです。

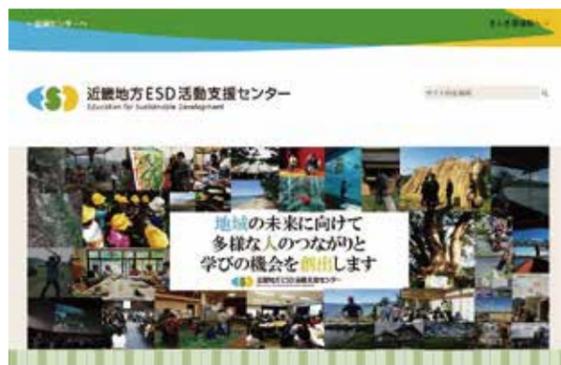
今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。日本国内のESD活動を支援するため、文部科学省と環境省によってESD活動支援センター（全国センター）と全国8か所に地方ESD活動支援センターが開設されました。近畿地方ESD活動支援センター（近畿ESDセンター）は近畿のESD活動・実践者を支援しています。

近畿ESDセンター4つの機能

1. ESD活動を支援する情報共有機能
2. 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
3. 人材育成機能
4. ESD活動のネットワークの形成機能

1. ESD活動を支援する情報共有機能

ホームページによる情報発信



近畿では様々な団体がESD/SDGsに関連したイベント、セミナー等を実施しています。そうした情報を収集し、発信しています。この他に当センター事業の報告や、ESDに関する教材の情報など、様々な情報提供を行なっています。



Facebookでの活動紹介



近畿ESDセンターのFacebookでは、環境保全に関するイベント情報や、ESDに関する取組を発信しています。



メールマガジンのご案内

きんき環境館（近畿ESDセンターを併設）が毎月2回発行するメールでのお知らせです。



2. 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能

近畿ESD アドバイザー派遣制度

近畿ESDセンターでは、「持続可能な開発のための教育（ESD）」や探究的な学びを推進するため、近畿ESDアドバイザー派遣制度を実施しています。本制度は、学校教育関係者や社会教育関係者、または教育関係者と協働を検討している方を対象に、近畿ESDセンターが謝金及び旅費を負担し、ESDの実践に向けてアドバイザーを派遣するものです。教員研修や職員研修などにぜひお役立てください！

こんなお悩みありませんか？

総合的な学習（探究）の設計に対するアドバイスが欲しい

ESDを学校と地域の連携に生かすにはどうしたらいい？

「主体的・対話的で深い学び」を促すにはどうしたらいい？

ESDの基本的な考え方と具体的な取り入れ方は？

支援内容

総合的な学習（探究）の時間の設計に関する個別相談
ESDに関する研修 / ワークショップへの講師派遣
地域と学校の連携に向けたアドバイス など

以下の条件等をすべてを満たす活動に、アドバイザーを派遣します。

- ①近畿における取組であること
- ②ESDの導入もしくは実践、又はそれを実施するに当たっての課題解決、もしくはESDを通じた地域課題の解決又はESDを通じた学校等と地域の連携であること
- ③申請者が学校、認定こども園、行政機関、非営利団体であること
- ④助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
- ⑤宗教・政治活動を目的としないこと

※派遣は1回あたり2時間程度を予定しています。
※アドバイザーへの謝金及び旅費はセンターが負担します。
その他の必要経費については、申請者でご負担ください。



▶ 2025年度派遣実績：5件

和歌山県教育庁への派遣

和歌山県エコティーチャー養成研修会

「明日の授業に活かせる題材探し、単元設計～総合的な学習・探究の時間の充実に向けて～」
アドバイザー：河野 晋也 氏（奈良教育大学 准教授）

実施日 2025年11月28日（金）

場所 和歌山県立情報交流センター Big・U

参加者 和歌山県の教員など23人

アンケートより
・ESDに対する考え方が、本講義を通してより自分の中で明確になった。
・ESDのイメージを「横から見ると・・・」「上から見ると・・・」の図で示していただけで、とても分かりやすかった。



河内長野市立公民館への派遣

公民館企画担当職員研修

・公民館職員の企画力向上
・公民館と学校、地域との連携をつくりたい
アドバイザー：上村 有里 氏（NPO法人とよなかESDネットワーク事務局長）

実施日 2025年12月18日（木）

場所 河内長野市立老寿やすらぎ千代田公民館

参加者 公民館職員など13人

報告書より
・グループワークを入れてほしい等のごちらの要望に添えていただいた。
・和気あいあいと研修を行っていたが、職員のESDへの理解やモチベーションアップにつながりました。ありがとうございました。



▶ その他の派遣先

特定非営利活動法人MSISK、一般社団法人のあつく自然学校、環境パートナーシップ協議会サソテナやお

3. 人材育成機能

4. ESD 活動のネットワークの形成機能

令和7年度 ESD for 2030 学びあいプロジェクト 学校と地域の対話で紡ぐ、持続可能な未来

かむろ 共育コミュニティとともに歩む学文路小学校の ESD 実践プロジェクト

「ESD for 2030学びあいプロジェクト」は、全国8カ所の地方ESD活動支援センターが、地域の課題や各センターの強みを考慮してテーマを設定し、様々な主体が地域を越えて相互に学び合うプロジェクトを企画・運営するものです。近畿ESDセンターでは令和5年度より、学校と地域が連携したESDの実践をテーマに学びあいプロジェクトを実施してきました。令和7年度は、和歌山県橋本市立学文路小学校における実践の支援、観察及び分析を通して、学校と地域が連携したESDを実現するためのポイントを検証しました。また、学文路小学校における実践の過程や成果を、他地域の実践も交えながら紹介することで、それぞれの地域での実践の参考となるような学びあいの機会を設け、ESD活動を推進しました。

近畿 ESD センター

- 令和5～6年度の学びあいプロジェクトで、学校と地域が連携する上で重要なポイント2点を整理
- ①地域の資源を題材とすること
- ②学校と地域がWin-Winの関係になるような連携を行うこと
- 学文路小学校における実践の支援・観察・分析を通して上記2点を検証
- 学文路小学校における実践の過程・成果を他地域に発信

支援
分析
検証

橋本市立学文路小学校

- 橋本市の共育コミュニティ、共育コーディネーターと連携した学校と地域の連携を推進
- 新校長が就任し、「みんなが笑顔になる学校」を目標に掲げ、児童の当事者意識や対話力の会得を目指す
- 開校150周年記念イベントに合わせて、地域と連携した探究学習をより一層進めようと企画を検討
- 子どもたちが当事者意識を持って関われるように企画を検討
- 次年度以降も地域と連携して企画を継続・発展させる意向

実施内容

学文路小学校での実践

1 第1回 Kamukamu 交流 Day

学校と地域の距離を縮める
日時 2025年9月19日(金) 15:30～16:40
場所 学文路小学校
参加者 学文路地区の地域の方、学文路小学校の先生方 49人



2 第2回 Kamukamu 交流 Day

地域、教員、児童と一緒に地域の過去・現在・未来を共有する
日時 2025年11月3日(月) 14:40～15:35
場所 学文路小学校
参加者 学文路小学校の児童、先生方、学文路地区の地域の方 100人



5 第3回 Kamukamu 交流 Day

地域、教員、児童と一緒にこれからの地域での取組を考える
日時 2026年1月23日(金) 14:20～15:35
場所 学文路小学校
参加者 学文路小学校の児童、先生方、学文路地区の地域の方 43人

他地域に広げるアクション

3 みんなで考える学校と地域の連携 ～橋本市立学文路小学校の実践を例に語り合おう～

地域の未来を共有する！編
日時 2025年11月19日(水) 15:00～16:30
場所 和歌山県自治会館(和歌山市)
参加者 学校と地域の連携に興味のある方 39人(対面15人、オンライン24人)
紹介事例 橋本市の「共育コミュニティ」の仕組みについて(橋本市教育委員会 弓場大樹主幹)
橋本市立学文路小学校の「Kamukamu 交流 Day」について(学文路小学校 林克美校長)
学校と地域の連携に関する他地域の事例について(奈良教育大学 河野晋也准教授)



4 プロジェクトを創出する！編

日時 2025年12月16日(火) 15:00～16:30
場所 和歌山県自治会館(和歌山市)
参加者 学校と地域の連携に興味のある方 43人
紹介事例 「Kamukamu 交流 Day」と「共育コミュニティ」について(学文路小学校 林克美校長、橋本市教育委員会 弓場大樹主幹)
「子どもみんな」の視点を取り入れた持続可能なまちづくり～スクール ESD くさプロジェクトから地域版 ESD への広がりに(津市教育委員会 中村大輔係長)



橋本市 共育コミュニティ



共育コミュニティは、学校・家庭・地域が連携し、子どもの成長を支えるとともに、大人も育ちあい、地域のつながりと活力を深める取組です。橋本市内に7つの活動本部があり、各本部の「共育コーディネーター」が地域と学校の活動の企画・調整を行っています。学文路地域でも共育コーディネーターが活動をされています。

近畿地方 ESD 推進ネットワーク 地域フォーラム 2025

実践者の声が、 あなたのヒントになる



地域フォーラムは、多様なステークホルダーによるネットワークの形成・構築を目的に開催しています。近畿においては、令和5年度から継続して、新学習指導要領で重要視される学校と地域が連携した ESD 実践に着目し、実践事例の共有や登壇者を交えた意見交換を行っています。令和7年度のフォーラムは、学校現場の教員や教育行政関係者が知りたい「地域連携の具体的なステップ」や「ESD 実践上の課題を乗り越えるためのヒント」の紹介を通じて、様々な世代・分野の方々が出会い、日々の活動における悩みを共有し、明日からの実践や新たな協働のきっかけをつくっていただくことを目的として開催しました。

2026年2月1日(日)10時～16時 OMMビル2階204・205会議室

第1部

対話から生まれる地域のあした

—学文路から始まる地域連携と橋本市「共育コミュニティ」—
学文路小学校は、橋本市の「共育コミュニティ」を活用して地域と連携した ESD を実践しています。地域住民、教員、児童を交えた対話を重ね、みんなの主体性を引き出しながら地域の未来を描いています。学文路小学校の挑戦に関する事例紹介から、地域と連携した ESD 実践のポイントを学びました。

事例紹介者・パネラー

- 弓場大樹氏 (橋本市教育委員会生涯学習課 兼 学校教育課) 「橋本市の地域と学校の連携」
- 林克美氏 (橋本市立学文路小学校 校長) 「学校と地域が共に描く学文路のあした」
- 長友恒人氏 (奈良教育大学 名誉教授)

コーディネーター

- 河野晋也氏 (奈良教育大学 ESD・SDGs センター 准教授)

アンケートより

- ESD の仲間がいること、実感できました。
- 事例の中にそれぞれの思いがたくさん込められており、大変興味深かった。次年度の参考にしたい。
- 参加者の皆さまの発表はいずれも完成度が高く、大変刺激的でした。フォーラム全体のデザインについても、全体としてよくまとまっていたと感じています。一方で、前例を踏襲している印象もあり、主催者の皆さまの意図やメッセージをより前面に打ち出した、さらにチャレンジングな試みがあっても面白いのではないかと感じました。

第2部

多様な ESD 実践者による事例発表

事例紹介者

- 山端和美氏・山端葵子氏 (アカハライモリ研究者) 和美さん(母)から、幼少期から自然環境に触れさせたことが環境教育につながったことを、葵子さん(娘)からは、イモリへの興味が生態系・環境問題への関心につながったことを発表いただきました。
- 橋元美穂氏 (木育サポートネット代表) 教育委員会と連携し、吉野町・橿原市の小中学校のカリキュラムに木育を組み込んだ実践をを展開されている橋元さんから、吉野杉・吉野檜を使ったものづくり授業を通じて、子どもたちが地域の森林資源と環境保全について継続的に学ぶ環境教育の取組を紹介いただきました。
- 浦哲治氏 (京都市環境政策局環境企画部環境総務課 担当課長) 「こどもエコライフチャレンジ」(環境学習プログラム)や「地域生きもの探偵団」(自然観察会)など、小学生を対象に様々な事業を実施する京都市から、地域と連携した環境教育を実践する狙いについてご紹介いただきました。

▼グラフィックコーディングの結果



▼事例紹介の様子

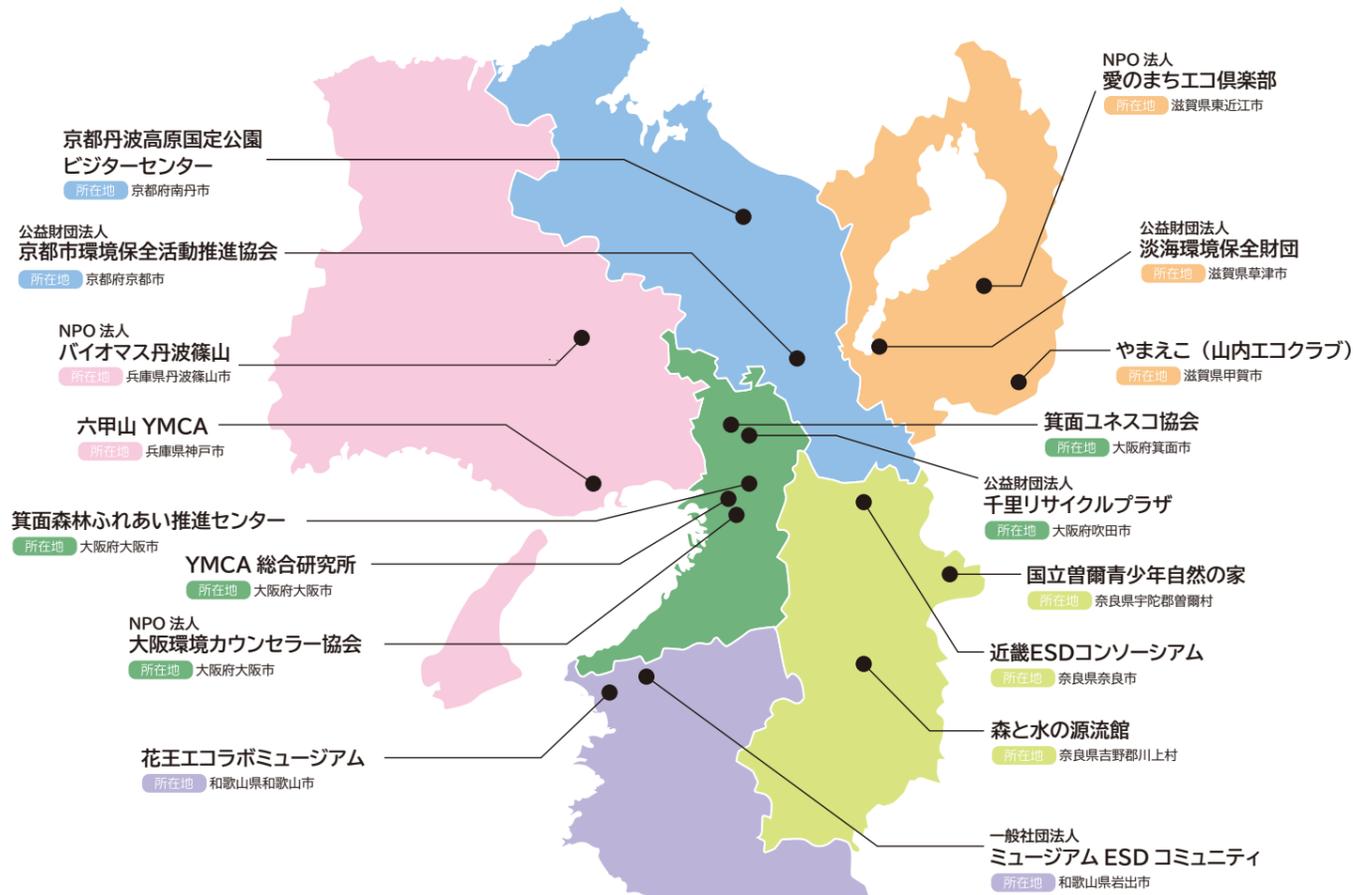


近畿の地域 ESD 活動推進拠点

地域 ESD 活動推進拠点とは

地域でESD活動を支援・推進する役割を担う組織・団体に「地域ESD活動推進拠点」として登録いただく制度です。登録は2017年10月に開始され、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO／NPO、公益社団法人等、多様なセクターから全ての都道府県で216団体が登録しています（2026.1.16時点）

近畿の登録団体 **17 団体**
(2026.1.16時点)



2025年度、地域ESD拠点を対象に、拠点のニーズを把握するため、ヒアリングを実施しました。

NPO 法人 大阪環境カウンセラー協会 (所在地 大阪府大阪市)

現場の声 近年、環境問題に関心のある高校生が増えているので、高校生の意欲をすくいあげる手段があると良い。他のESD関連団体との連携を試みることで、私たちの活動を知ってもらえるチャンスが増えれば嬉しい。



京都丹波高原国定公園 ビジターセンター (所在地 京都府南丹市)

現場の声 ESDセンターには、日常的なサポートよりも、「助けてもらいたいときに『助けて!』と言える関係性」を期待したい。近畿のESD拠点が会う機会があればいい。顔が分かり、連絡先を知っていると連携しやすい。



近畿地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会

企画運営委員会について

近畿ESDセンターでは、効果的な運営に向けて、活動方針等について議論する企画運営委員会を設置しています。委員は、ESDに関する学識経験者、専門家、ESDの推進に取り組むNPOの担当者から構成されています。現在の委員は、アドバイザー派遣制度のアドバイザーも兼任しています。

【企画運営委員会 委員一覧（敬称略）】

委員長	長友 恒人	奈良教育大学 名誉教授
委員長代理	庄田 佳保里	NPO 法人いけだエコスタッフ 理事長
	尾上 忠大	公益財団法人吉野川紀の川源流物語 事務局長
	上村 有里	NPO 法人とよなか ESD ネットワーク 事務局長
	来田 博美	公益財団法人淡海環境保全財団 キャリアアドバイザー
	河野 晋也	奈良教育大学 ESD・SDGs センター 准教授
	中澤 静男	奈良教育大学 ESD・SDGs センター 特任教授
	中島 恵理	同志社大学 政策学部 教授
	平井 研	近畿大学農学部水産学科 非常勤講師

委員長からのメッセージ

ESDは「持続可能な社会のつくり手を育む教育」です。気候変動、生物多様性、平和などに関連する身近な課題から世界的な課題を解決することを目指します。価値観や行動の変容を重視するのが特長です。「分析的でクリティカルな思考」によってひとつの課題がその他の課題と関連することに気づくことが変容につながります。地域・企業・NPOなどと連携することによって内容が豊かに、楽しくなり、市民一人ひとりが「持続可能な社会のつくり手」となることが可能になります。人と人をつなぎ、学びの機会を創出することによって「持続可能な社会のつくり手」を増やす活動を拡げたいと考えます。



奈良教育大学 名誉教授
委員長 長友 恒人 氏

近畿地方 ESD 活動支援センター

<営業日>

月曜日～金曜日 10:00～18:00

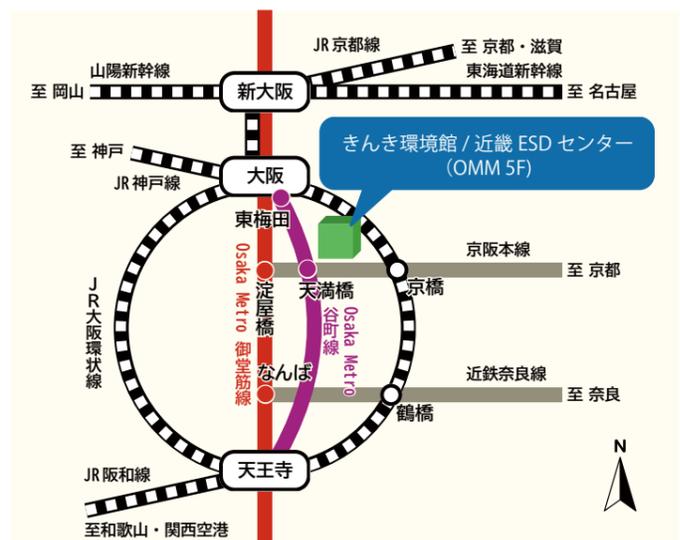
※休業日：土・日・祝・年末年始（臨時休業する場合がありますのでご来館時は電話あるいはWEBサイトにてご確認の上お越し下さい。）

<アクセス>

京阪電鉄「天満橋駅」又は
Osaka Metro 谷町線「天満橋駅」1番出口
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM5F
※きんき環境館に併設されています。

<お問い合わせ>

TEL:06-6948-5866 FAX:06-6940-2022
MAIL:office@kinki-esdcenter.jp
WEB:https://kinki.esdcenter.jp



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



近畿地方 ESD 活動支援センター
2025 年度 活動レポート

発行 2026 年 3 月
制作 近畿地方 ESD 活動支援センター